

談話室

カーリング選手
ゆのみ
鈴木夕湖さん

profile



鈴木夕湖

北海道北見市常呂町出身。1991年生まれ。カーリング女子日本代表。北見市体育協会所属。北見工業大学出身。旭川高専4年の2010年、結成と同時にロコ・ソラーレ（L S北見）に加入。2018年の平昌オリンピックでは日本初の銅メダルを獲得。

——カーリングを始めたきっかけは何ですか？

いつごろからオリンピックを目指したのですか？

小学校2年生の時に常呂町にカーリングをもってきてくれた小栗さんという方に誘っていただいて始めました。常呂町はカーリングでオリンピック選手を沢山輩出していてオリンピックが身近な町でしたが、私がオリンピックを意識したのは結構遅めだったと思います。私が高専4年生の時に本橋選手に誘われて、今のチームが出来ました。その時初めてぼんやりオリンピックを意識したと思います。本当に自分が出場したいという思いが強まったのはソチオリンピック後で、就職して環境も変わって、カーリングができることは当たり前ではなく沢山の人の応援があってこそだということに気が付き、自分のためだけではなく応援してくれている方々のためにもオリンピックに行きたいという思いが強くなりました。

——なぜ高専に進学したのですか？

理科の実験が好きだったのでもっと実験がしたいという思いと、あと中学時代は理数系が得意で好きだったのもあると思います。

高専時代は、すごく自由な生徒だったと思います。やりたいことはやっていたし、あまり後先考えないタイプでもありました。ただ、今もそうですが、私は本当に周りの人に恵まれていると思うことが多くて、とくに4年生からは大会などで学校に行けないこともあったのですが、友達がノートを貸してくれたりわからないところを教えてくれたりして本当に助けてもらいました。自分

で言うのもなんですが、私もやるときはやる性格なので、友達の助けもありなんとか5年でしっかり卒業することができました。

——数学は得意でしたか？

得意でもなく苦手でもなかったと思います。ある程度勉強すれば理解できましたし、だからと言って授業中だけで理解できたかというところでもなかったので…。数学は答えがしっかりあるので、パズルを解くような達成感があるのが好きでした。逆に嫌いなところは、たまに理論がなかなか理解できない問題があるところです。確率の問題がすごく苦手で、なかなか理解できなかったのを今でも覚えています。

数学の勉強は、公式を丸覚えしないで、できるだけしっかり公式の理論を理解したり自分で覚えやすいポイントを見つけたりして、問題を解きながら自然と覚えるようにしていました。あとは、慣れもあると思うので沢山問題を解くようにしていました。どうしても分からない問題は頭のいい友達に聞いていました！

——カーリングに数学が役立つことはありますか？

カーリングではショット率を出すのですが、最近はそのだけでなく、インターン/アウトターン（時計回り/反時計回り）のデータを細かく取り、インターンのこのショットは成功率何%で他のショットよりも良くないとか、自分ではあまり気が付かなかった苦手なショット・得意なショットを知るのに役立っています。あとは、このエンドでどのくらいの点差で後攻を持っていると勝率が何%ある、といったような統計もとったりして作戦の参考にしています。

——最後にメッセージをお願いします。

最近、何事も楽しむということは本当に大事ななと思うんです。なので先生には数学の楽しさを教えてほしいなと思いますし、高校生も、もし苦手だったとしても楽しもうという気持ちを忘れず、どこかに楽しさを見出してほしいと思います。そして先生も教えることを楽しんでください！あと、予習復習は少しでもいいからちゃんとやろう。（高校生と高校生の私へ。）